

令和6年10月17日

関係各位

京都市立堀川高等学校
校長 橋 詰 忍

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール(SSH)研究指定校

京都市立堀川高等学校 第26回 教育研究大会のご案内(二次)

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は本校教育活動に格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、来る11月8日(金)に、本校におきまして第26回教育研究大会を下記のとおり開催いたします。

本大会は、京都市立高等学校教育改革のパイロット校に指定された本校の教育活動を公開し、ご指導とご助言を仰ぐとともに、よりよい高等学校教育の実現に向けて活発な交流を行うために開催するものでございます。

本大会では、学びの意欲と自己調整力を高めるための取組などを報告する全体会に加え、研究授業や公開授業、および教科別分科会を実施いたします。

ご多用のことと拝察いたしますが、多くの方々にご来校、ご参観いただき、ご指導を賜りたくご案内申し上げます。

記

1. 研究大会テーマ

「適切な自己評価、自己分析をし、行動に移すことができる生徒の育成」

2. 実施日時等

日時：令和6年11月8日(金) 10:00～16:25

場所：京都市立堀川高等学校 本館

(京都市中京区東堀川通錦小路上る四坊堀川町622-2)

・プログラム

9:15	10:00	10:20	10:40	11:30	11:45	12:35	13:35	15:25	15:40	16:25
受付	挨拶 大会にあたって	休憩(移動)	研究授業 I 公開授業 I	休憩(移動)	研究授業 II 公開授業 II	休憩・昼食	教科別分科会	休憩(移動)	全体会	

3. 内容

(1) 事前動画配信

※ 当日の(3)教科別分科会・(4)全体会での議論が活発なものとなるよう、本校での教育活動に関する動画を、ご参加のみなさまに事前に配信させていただきます。

・本校の教育課程と今年度の研究大会テーマについて

本校では令和3年度まで3学年とも週35時間の時間割を組んでいましたが、生徒各自の学びの意欲と自己調整力を高めるために、令和4年度入学生から1年次34時間、2年次前期33時間、後期32時間、3年次30時間と段階的に授業時数を減じていく教育課程に変更しました。

それにより生じた時間を有効に活用すべく、1年次には、生徒が自分自身の学びの目的・目標やその実現に向けて、生徒同士で学習を見通し、分析し、学習の方法を考える力をつけるために、クラスで自分が学ぶ目的や学び方の交流をしたり、自分の学びを振り返ったりする「学びのアセスメント」の時間を設けました。また、総合的な探究の時間「探究基礎」の内容などの変更をおこない、2年次後期には、テーマ・活動時間・場所などの自由度を高めた活動「Academic Project」の時間を設けました。

このような取組を通して、生徒の自ら学びをデザインする力が高まれば、3年次の授業時数減で生じた時間を生徒が有効に活用するのではないかと考えております。

令和4年度入学生が3年生となった今年度の様子とこれまでの2年間について、研究大会当日に先立ってご紹介します。

(2) 開会式(10:00~10:20)

挨拶

京都市立堀川高等学校長

橋詰 忍

(3) 研究授業Ⅰ(10:40~11:30)

・各教科の研究授業実践(地理探究、生物基礎・生物、英語コミュニケーションⅡ)

(4) 公開授業Ⅰ(10:40~11:30)

・各教科の研究授業実践(言語文化、歴史総合、数学ⅠA、情報Ⅰ)

(5) 研究授業Ⅱ(11:45~12:35)

・各教科の研究授業実践(現代の国語、数学研究α)

(6) 研究授業Ⅱ(11:45~12:35)

・各教科の研究授業実践(地理総合、化学基礎、英語コミュニケーションⅠ)

(7) 教科別分科会(13:45~15:25)

・国語科、地理歴史・公民科、数学科、理科、英語科

・研究授業ⅠおよびⅡに関する研究協議

・授業時数減をはじめとしたカリキュラム改編の影響を教科としてどのように分析し工夫してきたか、また、授業の内外を問わず指導のあり方について今後改善すべきことはどのようなことか、などについて議論したいと考えています。

(8) 全体会(15:45~16:25)

・「新しい教育課程の目標と評価」

学習指導要領の本格実施から2年半が経過し、各校で令和4年度以降実施している教育課程についての成果と課題を捉えつつあるところかと思えます。そこで、全体会では、本校の教育課程における課題を報告するとともに、参加いただいた先生方の学校における教育課程のねらいやしかけ、工夫などにつ

いて意見交換をしたいと考えております。

テーマに関する事前アンケートを依頼させていただきます。申込時にご回答いただいた方には、当日の全体会でもご発言をお願いすることがあります。

※事前アンケートの内容については、末尾に添付しております。お申し込みの際のご参考にさせていただければ、幸いです。

4. 会場

京都市立堀川高等学校

〒604-8254 京都市中京区東堀川通錦小路上る四坊堀川町 622-2

5. 研究授業

研究授業 I (10:40~11:30)

授業名	授業内容		授業者 担当クラス 場所
地理探究	タイトル	都市の成り立ちと機能	乾 凜久登 2年1・2組 (普通科・ 人文探究 コース) S-302
	概要	GISより都市の機能や形態等の変化を考える。	
	ねらい	地理総合の授業で利用したGISを用いて、都市の特徴や機能を分析、考察する。その結果から、都市の持つ機能や、都市が人々の生活に及ぼす影響について理解を深める。	
生物基礎・生物	タイトル	生物の進化	古木 隆寛 (普通科・ 理数探究 コース) 生物教室
	概要	生物の様々な状況下での進化についてシミュレーションを行いながら考える。	
	ねらい	進化にどのような環境的要因が関係しているのかを考察させ、分類などについても理解を深める。	
英語コミュニケーションⅡ	タイトル	個々の技能の集大成としての4技能統合型授業を目指して 一生徒の「英語観」を育てるための仕掛け	松宮 正義 (人間探究 科・自然探 究科) S-303
	概要	パフォーマンスタスクに向けてディスカッションやディベートなどを行いながら自分のアイデアを整理する。	
	ねらい	教科書や投げ込み教材からインスピレーションを受けつつ、パフォーマンスタスクに向けて自分の考えを整理し、英語で伝えられるようになる。	

研究授業 II (11:45~12:35)

授業名	授業内容		授業者 担当クラス 場所
現代の国語	タイトル	自己理解と他者理解	大上 若奈 1年6組 (探究科) G-CALL
	概要	「身体」を通じた自己理解・他者理解について書かれた文章を読む。	
	ねらい	学校生活の中で、生徒が自己をふりかえる場面は多い。しかし、うわべだけの言葉を並べた表面的なふりかえりもみられる。 文章を読み、生徒が筆者の考えをふまえて独自の具体例を考えることで、身体を通じた自己理解・他者理解の可能性に気づき、表面的なふりかえりから脱却することを目指す。	
数学研究 α	タイトル	「統計」からの数学の展開	續木 俊哉 2年3・4組 (自然 探究科) 演習室 1・2・3・4
	概要	数学B「統計」の単元の最終回として、学習内容を出発点として数学Ⅲの内容も意識した発展的内容を扱う。	
	ねらい	数学Bの内容は、高度な極限や積分の知識を使っていることがあるため、数学Ⅲへの接続を意識した授業構成ができるのではないかと考え、実践する。	

6. 公開授業

公開授業 I (10:40~11:30)

言語文化	北村 大知 中村 説子	1-5	S-405・406
歴史総合	遠 史香	1-1	S-401
数学ⅠA	杉野 公亮	1-2	S-402
情報Ⅰ	高松 凌多 谷口 秀一	1-6	CAI

公開授業 II (11:45~12:35)

地理総合	竹下 玄太	1-2	S-402
化学基礎	池内 秀和	1-1	化学教室
英語コミュニケーションⅠ	重安 拓馬	1-5	S-405

7. 分科会

分科会(13:45~15:15)

分科会 国語科	テーマ 「適切な自己分析をもとに自己評価を行い、行動につなげる」	
はじめに、今回の研究授業におけるねらいを中心に研究協議を行う。その後、研究授業を踏まえつつ、三年間を通じて、「適切な自己分析をもとに自己評価を行い、行動につなげる」生徒の育成について意見の交流を行いたい。		
発表 飯島 弘一郎	司会 鶴蘭 智志	記録 東前 明日香
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事		上杉 まり 氏

分科会 地理歴史・ 公民科	テーマ 3年間を通じた自己調整力を育成し実行に移すための カリキュラムの構築	
分科会では、まず今回の研究授業におけるねらいを中心に研究協議を行う。その後、研究授業を踏まえつつ、総合科目・探究科目を連関した3年間のカリキュラムにおいて、どのように自己調整力を育成し、適切に発揮させていくか、意見の交流を行いたい。		
発表 乾 凜久登	司会 竹下 玄太	記録 松本 捷
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事		安達 太郎 氏

分科会 数学科	テーマ 自己評価から行動に繋ぐ授業の役割 ～統計の授業の実践交流を通して～	
以下の2点が分科会の内容の中心である。 ① 数学Bの「統計」の単元の授業実践交流を行う。理念的な内容よりも、実際にどのように教えたかや、どのような発問ができたかなど、具体的な内容を重視したい。 ② 生徒が自分の学習状況を自己評価したうえで、さらに具体的行動に移すためには、自分にとって効果のある「学習方法」を身に着ける必要があるという前提に立ち、授業あるいは授業以外で、それについて教員からどのような働きかけが可能かを協議する。		
発表 續木 俊哉	司会 中野 高志	記録 浅野 はるか
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事		紀平 武宏 氏

分科会 理科	テーマ 新学習指導要領における観点別評価について	
新学習指導要領における主体性の評価について、生徒が自ら学びに向かう姿勢を育成する方法について、自己分析および自己調整力という観点から議論を行う。		
発表 古木 隆寛	司会 池内 秀和	記録 小島 直起
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事		安川 隆司 氏

分科会 英語科	テーマ 新学習指導要領における英語学習の在り方を考える —生徒が各自の「英語観」を持つために	
新学習指導要領で学ぶ生徒の英語力に関する傾向については様々な観点から分析がなされているが、生徒たちは自分たちの英語力をどのように分析し、行動に移せば良いのだろうか。自らが身につけるべき技能を生徒が自身の文脈に即して考え、分析し、行動に移せるようになるために、授業内外でどのような仕掛けをしているかを紹介し、生徒が自分自身の「英語観」を育むための方法を議論する。		
発表 松宮 正義	司会 浦田 顕士	記録 井上 阿紀子
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事 坂井 美保 氏		

8. 分科会お申し込み方法 / 参加費・資料の配布について

- (1) 参加費：無料
- (2) 参加対象：学校関係者, 教育関係者
- (3) 申込方法・申込期間：

令和6年10月18日（金）13時～10月24日（木）13時

検索サイトから、[堀川高校 研究大会 2024](#) で検索し、
本校 web サイトをご確認のうえ、「申込フォーム」よりお申込み下さい。
右の QR コードから「申込フォーム」を開くことも可能です。



(本研究大会のお問い合わせ先)
京都市立堀川高等学校 研究部 (達、松本)
メール：kenkyu-info@horikawa.ed.jp
電話：075-211-5351

以上

—申込フォームにてお伺いする事前アンケートの内容—

<全体会におかれて>

勤務校で令和4年度から実施されている教育課程についてお聞きします。

- ・学校教育目標をご記載ください。(記述)
- ・令和3年度以前の教育課程から、教育課程の目標に変更があった点があればご記載ください。(記述)
- ・学校教育目標や教育課程の目標実現のため、特に工夫した点や仕掛けがあればご記載ください。(記述)

<地理歴史・公民科分科会におかれて>

—日本史探究をご担当された経験のある先生方にお伺いします。差し支えなければ、以下の質問にご回答いただければ大変ありがたいです。—

- ・みなさまの学校では、歴史総合と日本史探究をどのように関連させていらっしゃいますか?具体的に教えてください。(記述)
- ・学習指導要領における歴史総合の大項目BCDの中項目(4) (「〇〇化と現代的な諸課題」、「現代的な諸課題の形成と展望」)や日本史探究の大項目ABCDの中項目(3)の【諸事象の解釈や画期を表現する学習】、中項目(4)現代の日本の課題の探究について、どのようなご指導を実施されていますか?(記述)